

学校施設-016

施設名 — 北海道登別明日中等教育学校

所在地 — 登別市片倉町5丁目18-2

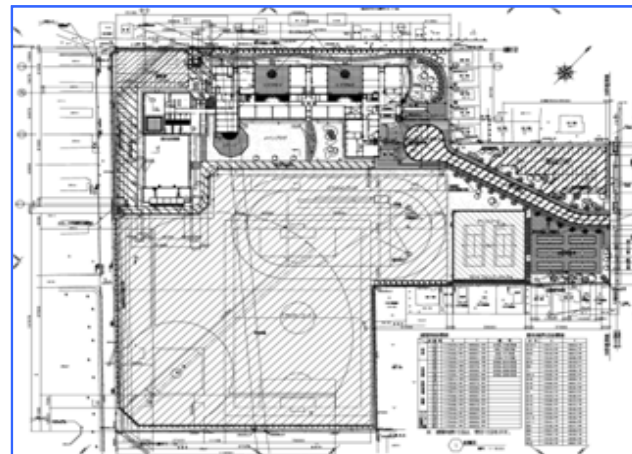
構造・規模 — W造 一部RC造 2階建 5,760㎡

完成年月日 — 平成18年11月11日

基本計画 — (株)北海道岡田新一設計事務所

建築実施設計 — (株)北海道岡田新一設計事務所

設備実施設計 — (株)環境設備計画





【設計コンセプト】

豊かなコミュニケーションを育む学校づくり「豊かな人間性・才能は、豊かなコミュニケーションのもとで伸ばすことができる」と認識し、直接的なコミュニケーションの場を校内に限定することなく地域社会にまで広げ計画をした。特に校内においては6年間の中高一貫教育を前提に、異年齢生徒間、教師間のコミュニケーションの場を要所に配置し、屋外においては、学校の地域開放を前提に、多様な広場を用意して地域社会の人たちとのコミュニケーションの場としているとしている。

○ 平面計画

中等教育学校の特徴は、異年齢生徒が容易に交流できる空間を用意するところにある。したがって当校舎においては、異年齢生徒が学校生活で日常利用する廊下の要所に、交流のきっかけづくりの場として多様な談話スペースを用意している。さらに、上下階の生徒の交流を促すため、交流スペースは吹く抜けを介して設置されている。また普通高校にはない給食などの集合スペースは多目的室の積極的な活用を意図して計画されている。

○ 外装計画

本計画は木造校舎の実現をテーマとしているため、校舎は鉄筋コンクリート造と比較して躯体蓄熱が少ないため、断熱計画においては外断熱工法ではなく内断熱工法を採用している。したがって、外装計画においては外断熱工法と比較して外装材の制約が少ないため、外装計画では地域産業との結びつきを優先し、木造校舎部の主要外装材は北海道でこれまでに親しまれてきたレンガと木（耐候性）を採用している。鉄筋コンクリート造校舎は木造校舎の背景となること意図し、その外装はコンクリート面に簡素な塗装仕上としている。この異種構造の校舎を連携させるサッシはともに機密性を考慮し、アルミアルマイト仕上げとし

学校施設-017

施設名 — 北海道札幌北高等学校

所在地 — 札幌市北区北25条西11丁目

構造・規模 — RC造 4階建 9,720㎡

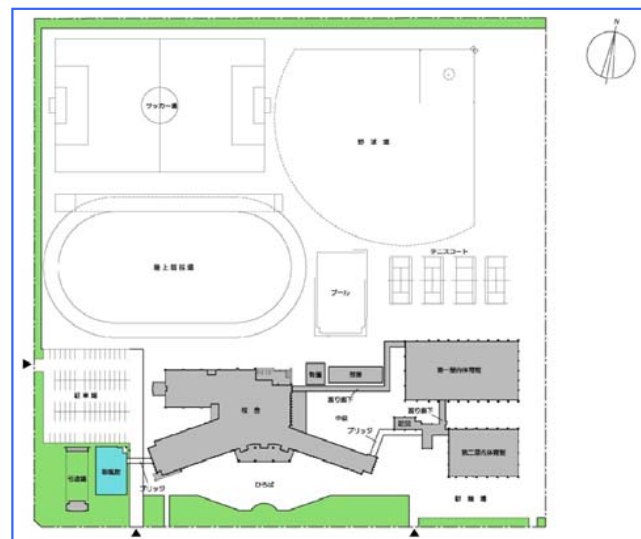
完成年月日 — 平成19年11月30日

基本計画 — (株)創健社

建築実施設計 — (株)創健社

設備実施設計 — (株)共伸設備設計事務所

土木実施設計 — ハブリックコンサルタント(株)





【設計コンセプト】

○ 周辺環境との調和

歴史のある学校と共に育ってきた前庭のみどりをできるだけ残して、そのみどりとV字の校舎とで囲われた特徴のあるアプローチ・交流空間を創出した。また北大農場へつながる南北の通りの軸上に外部・内部のシンボリックな要素を集約し、その正面は大学風なアカデミックなデザインで、札幌北高の特徴である理知性を印象つけた。

○ 居心地良い交流の場の確保

教室前の大きな開口部を持った片廊下は、眺望の良い明るい空間なので、緊張感から解放された生徒のコミュニケーションの場である。V型ウイング形式の校舎の中心は、ガラスブロックなどから冬には温かい太陽光が奥まで注ぎ込み、夏には高度差を利用した自然風が流れる、環境に配慮したアトリウムとした。

○ ソーニングの工夫

南ウイングは普通教室・管理棟、北ウイングは理科・芸術などの特別教室棟、中央のアトリウム廻りは図書・視聴覚などの情報ゾーンとして、学習空間を明快にし、特に図書室は吹抜に開かれた生徒ホールと連携を図れるようにした。

学校施設-018

施設名 — 北海道上富良野高等学校

所在地 — 空知郡上富良野町東町3丁目1-3

構造・規模 — RC造 2階建 3,368㎡

完成年月日 — 平成17年7月7日

基本計画 — (株)アトリアク

建築実施設計 — (株)アトリエアク

設備実施設計 — 塚田設備管理(株)

土木実施設計 — チカラ総合設計(株)

【設計コンセプト】

- 学校づくりは…人づくり、まちづくり、環境づくり

公共建築である学校には、その接点となるための空間と機能が必要であると考えます。

上富良野高等学校は、背景に雄大な大雪山系、周囲には成熟した緑のバッファという資源に恵まれています。

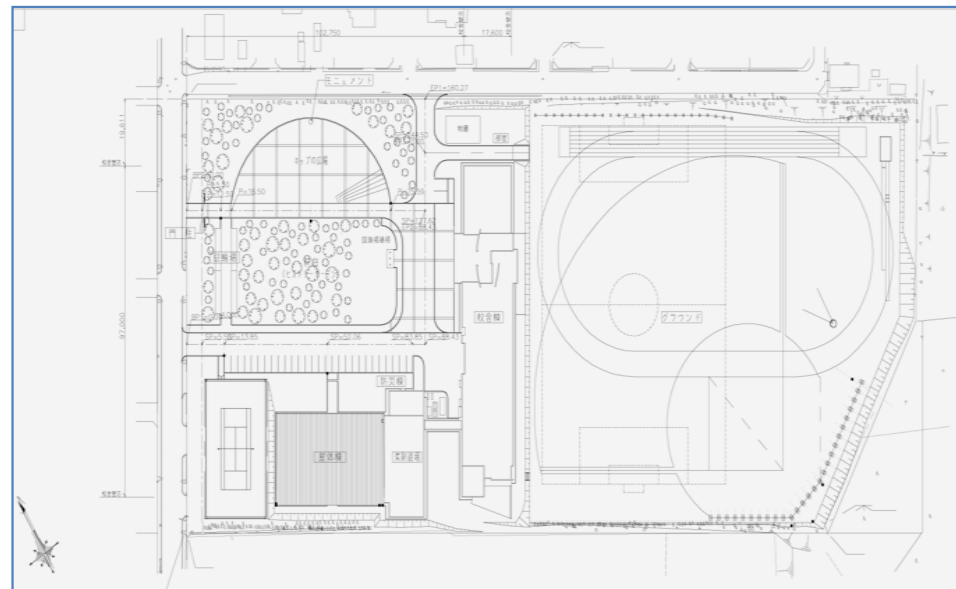
それらを生かし、地域の新しい広場をつくり地域のシンボルとなる学びの広場（ランドスケープデザイン）を目指しました。

（ホップの広場、既存樹を生かしたヒストリーガーデン）

- 様々な活動の場となるコミュニケーションスペース

校舎の中心にはメディアギャラリー（情報収集・発信の場）、ホップホール（集い、にぎわう交流の場）として図書室、談話コーナーを設け、南西側隣地ホップ畑には音楽教室と一体になったアートテラス（外部ステージ：つたえる、感じあう）を設置しました。2つのスペースと階段、吹抜け、広場空間を結び回遊性を持たせることで、多くの人々が集う交流の拠点を作り出せると考えました。

コミュニケーションを活性化し、様々な活動のきっかけとなるスペースとなることを期待しています。



学校施設-019

施設名 — 北海道栗山高等学校

所在地 — 夕張郡栗山町字中里64-18

構造・規模 — RC造 3階建 5,211㎡

完成年月日 — 平成17年1月31日

基本計画 — (株)西村建築設計事務所

建築実施設計 — (株)西村建築設計事務所

設備実施設計 — (株)大洋建築設備研究所

土木実施設計 — (株)シビテック

【設計コンセプト】

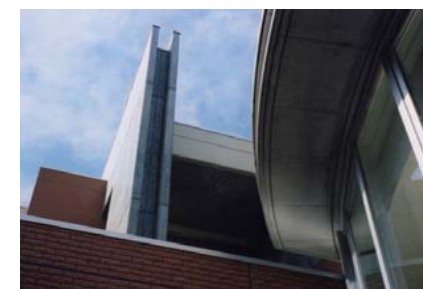
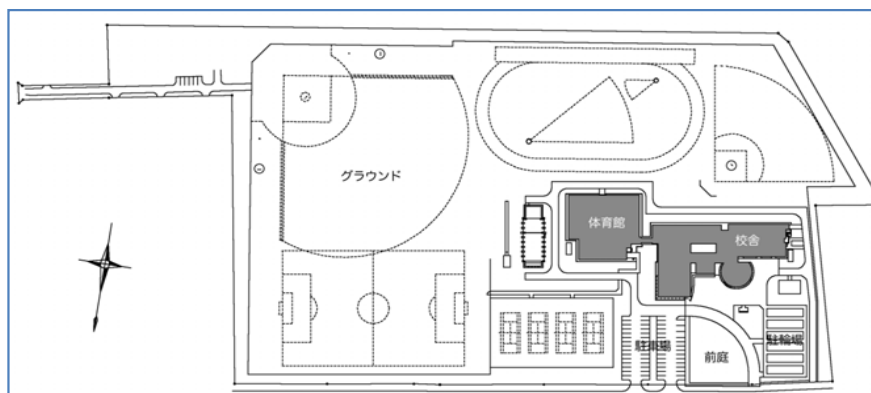
○ 形状の意図と多機能な図書室

垂直な壁は生徒の自立的精神を、軒のある円形のフォルムは大きな樹の下に集い学ぶ教育の原点を意図しています。先人の知恵を伝える器を図書室に求め、作法室とワークスペース（工房）を併設し、図書室の機能を通じた幅広い利用を考えています。

○ 光庭の効果と期待

光庭は、「内と外」・「光と風」視線を逃す心理的効果や自然に対する意識を増幅させる装置として多様なシーンを創出します。古くから広場は互いを確かめ合う中で公的精神を高め、学校はコミュニケーション力を身につける場としての社会的機能を復活してもらいたいものです。

情報活用能力に注目が集まる昨今「ここにしかない楽しい語らいの出来る場」や「学ぶ意欲を触発できる環境づくり」等、多角的視点から取り組んでいるところです。



学校施設-020

施設名 — 北海道檜山北高等学校

所在地 — 久遠郡せたな町北檜山区丹羽360

構造・規模 — RC造 3階建 6,609㎡

完成年月日 — 平成16年1月20日

建築実施設計 — アトリエアク・三関（共）

設備実施設計 — (株)大洋建築設備研究所

土木実施設計 — (株)シビテック

【設計コンセプト】

○ 農業科を持つ学校施設の可能性

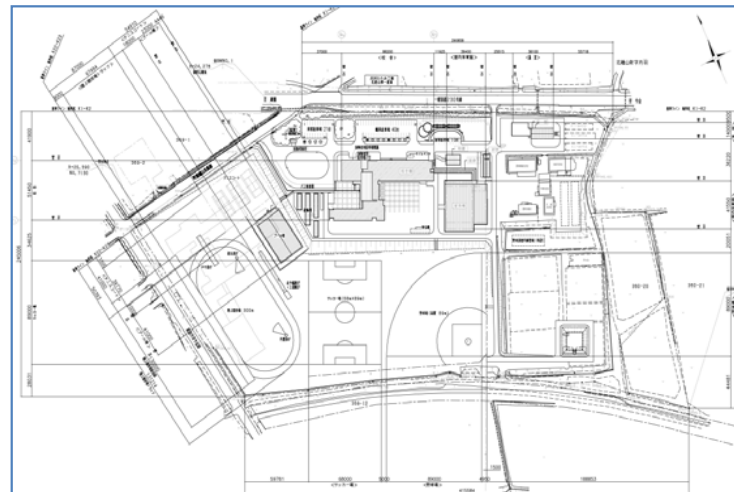
21世紀に向け、農業は生産手段のみならず、「環境共生」、「環境教育」、さらに少子高齢化時代における「地域教育」においても重要な意義を持っています。そこで、資源エネルギー、人材、情報が合理的に結びつき、交流・活性化する農業を軸とした循環型地域システムの中で核となるような施設づくりが重要なテーマであると考えました。

○ 空間構成

エントランスを抜けると、ホームルーム棟と実習棟を繋ぐアグリセンター（吹き抜け空間）を通し、中庭や屋外の実習風景が見えてきます。

学校と地域が施設を共有し、農業実習や自然観測など学校の特色を生かしたプログラムの環境教育を行い、地域交流の拠点として機能できるような空間構成としました。

また、毎日の学校生活の中で、地域や環境との繋がりを密接に感じられるような空間であることを考えました。



学校施設-021

施設名 - 北海道旭川西高等学校

所在地 - 旭川市川端町5条9丁目1-8

構造・規模 - RC造 4階建 7,362㎡

完成年月日 - 平成17年1月31日

建築実施設計 - 道設計・創名(共)

設備実施設計 - (株)塚田設備管理

土木実施設計 - (株)シン技術コンサル

【設計コンセプト】

北海道旭川西高等学校は、石狩川に面し周辺環境は閑静な住宅地に囲まれた地域性であり明治40年女学校として創設され、「白亜の殿堂」と称し歴史性高い学校です。

○ つなぐ

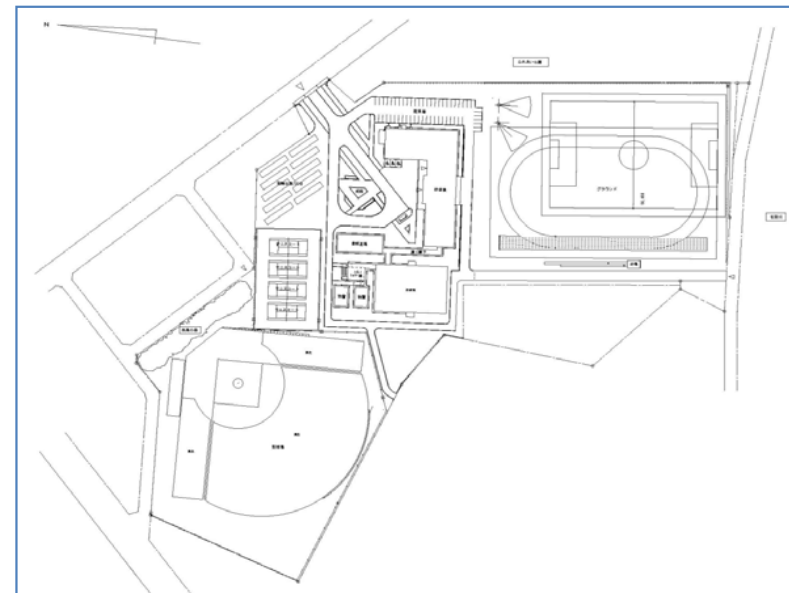
西高の森、学園通り並木、隣接するふれあい公園を有機的に結び〈学校〉と〈地域〉をつなぐ計画として付帯施設も含めた計画を行いました。

○ つどう

前庭はアプローチ動線の延長にあり学校だけでなく、地域の人々が訪れ気軽に立ち寄れる前庭計画を行いました。

○ いやす

立地条件を生かし、石狩川、大雪山連峰の眺望を積極的に取込んだ学習環境を創り、また、建物ボリュームが地域に圧迫感がないよう、L型の校舎とし近隣住宅地に調和した計画としています。



学校施設-022

施設名 — 北海道滝川高等学校

所在地 — 滝川市緑町4丁目5-77

構造・規模 — RC造 4階建 4,036㎡

完成年月日 — 平成15年12月1日

建築実施設計 — 道設計・北星・相田（共）

設備実施設計 — 田中・札幌設備（共）

土木実施設計 — (株)シーイーサービス

【設計コンセプト】

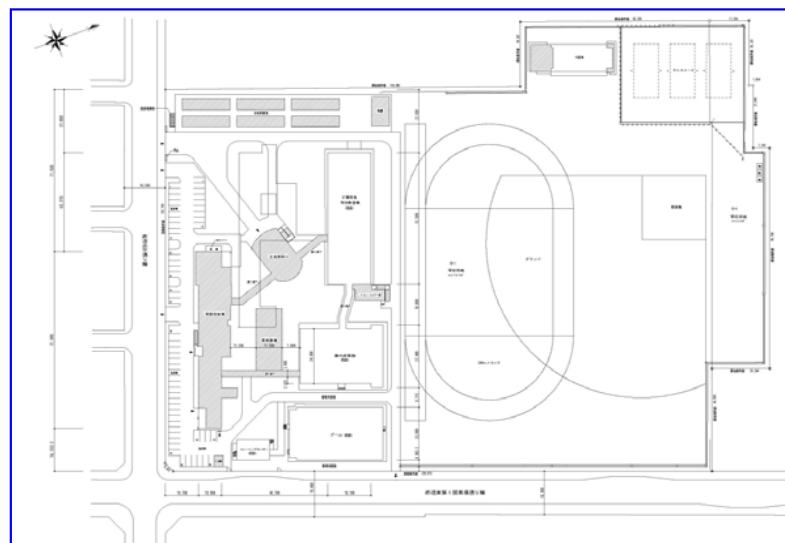
施設計画にあたり、心豊かに逞しく生きる力を育み、調和のとれた人格育成の場としての学校施設、そして地域の人々とともに学び、21世紀へ向けた開かれた施設づくりを目指すことを基本テーマとしました。

○ 既設棟とのつながり

既存施設として、特別教室棟・体育館・プール棟があり、普通教室棟・柔剣道場・自転車置場・物置等を新設しました。既設特別教室棟と新設普通教室を結ぶ渡り廊下に学校のシンボルとなるよう、開放的で明るい生徒昇降口を配置し、機能上の調和を図りながら、有効かつ効率的な土地利用に配慮し、緑豊かな広場（オアシス）に面するように設け、外部空間の拡がりを持たせ、ゆとりや開放性を創出させています。

○ 配置計画

前面道路、隣地境界線からの離れを十分にとりながら、人と車の動線を分離し、生徒用と職員用のアプローチを明確にした配置計画としました。



学校施設-023

施設名 — 北海道小樽桜陽高等学校

所在地 — 小樽市長橋3丁目19-1

構造・規模 — RC造4階建 3,950㎡

完成年月日 — 平成18年1月20日

基本計画 — (株)北海道岡田新一設計事務所

建築実施設計 — (株)北海道岡田新一設計事務所

設備実施設計 — 塚田設備管理(株)

土木実施設計 — パブリックコンサルタント(株)

【設計コンセプト】

小樽の歴史あるまちなみと周辺地域との調和を大切にするを基本方針として計画しました。

○ 配置計画

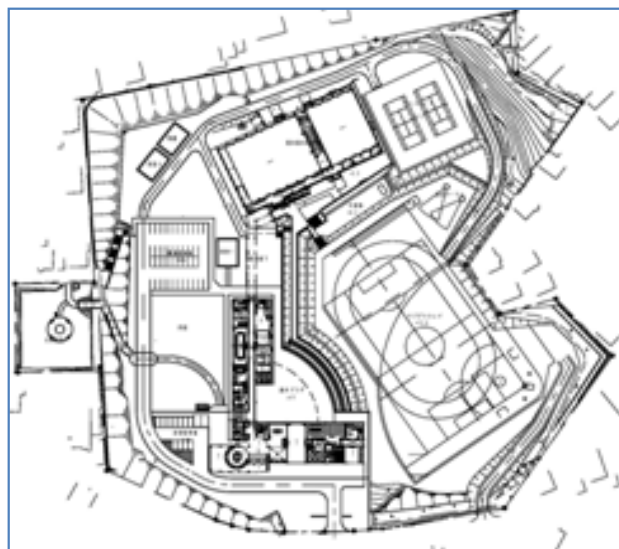
港を見渡せる眺望を確保するとともに、校地が緑の丘陵地で形成されていることから、校地の緑化にも配慮した計画としています。

○ 平面計画

校舎の平面計画は、各教室から小樽湾が一望できるようにL字型にし、南面に普通教室棟、東面に特別教室棟を配置しています。そして、二つの棟が交差する位置の一階には、桜陽記念ホールを設け生徒、父母などの来訪者が、学校の歴史に接することができるよう配慮しております。

○ 敷地特性を生かした交流空間

屋外では、高低差のある敷地の特性を活かした特徴あるプラザを設けています。このプラザは、校舎の敷地とサブグラウンドのレベル差を利用した、観覧席のある屋外空間とし、生徒の日常の交流の場や、学校祭などのイベント場として活用できるように計画し、生徒同士のコミュニケーションが地域の人とのコミュニケーションにまで発展するように、校舎の外に、小さな空間から大きな空間まで多様な交流空間を設けています。



学校施設-024

施設名 — 北海道名寄高等学校

所在地 — 名寄市徳田204

構造・規模 — RC造 3階建 5,131㎡

完成年月日 — 平成17年11月10日

基本計画 — (株)環境設計

建築実施設計 — (株)環境設計

設備実施設計 — (株)真紀設計

土木実施設計 — (株)帝国設計事務所

【設計コンセプト】

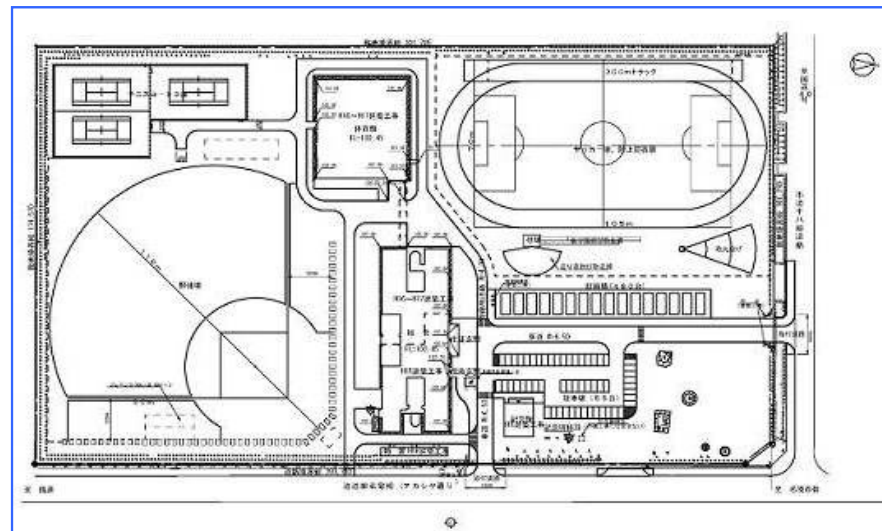
名寄高校は、平成14年に開校80周年を迎え、道北地域において長い歴史と伝統があります。厳寒多雪の地域の中で生きる知恵を学び、教え、伝える場となり地域の中心的な施設になることが期待されており、次世代を担う若者を育てる教育施設として、地域と生徒が自由に学び交流できることが重要と考え、「厳寒多雪という地域性と調和し、生徒の自主性と個性を伸ばす教育施設の整備」をテーマに設計しました。

○ 景観への配慮

建設地は、市街地から少し離れた田園風景に囲まれた自然豊かな場所であり、学校の周辺は「しらかば並木」が立ち並んでいます。校舎の外観は、ベージュ色をベースとし、ファサード面の腰壁に茶系のタイルを使用することで、周囲の風景と調和がとれるように配慮しました。

○ 空間の工夫と教育環境への配慮

校舎は、中庭と生徒玄関に「吹き抜け・テラス」を設け、生徒どうしをつなぐ活動的交流空間を創り、明るく開放的な教育環境を創出しています。また、多様な授業形態に対応できるよう、フレキシブルに利用可能な多目的講義室、OA対応コンピュータ教室を整備しています。



学校施設-025

施設名 — 北海道苫小牧東高等学校

所在地 — 苫小牧市清水町2丁目12番20号

構造・規模 — RC造 4階建 6,502㎡

完成年月日 — 平成21年3月13日

基本計画 — (株)アトリエ・アク

建築実施設計 — (株)アトリエ・アク

設備実施設計 — (株)環境設備計画

土木実施設計 — 北海道土木設計(株)

【設計コンセプト】

「恵礼勤労」を校訓、「自主自律」「文武両道」を校風とする東高は、部活動も盛んで、定時制も併設されています。その為、朝から夜まで、そして、平日はもとより休日まで利用率の高い学校といえます。

校舎改築がはじまり、「北海道学力向上フロンティアハイスクール」の奨励校になりました。

○ 地域とともに歩む学校であるために

校舎棟と緑が丘公園で囲まれた既存記念館のあるエントランスコートは、ゆったりとした落ち着いた憩いの広場です。地域とともに歩む学校であるために、あかるく、便利で気持ちよく、オープンな空間として地域に開かれ、交流と活動を生み出すエントランスコートになっています。

○ 学び、つどい、憩う空間のデザイン

日常の学習・活動の場となる機能的な空間システムとして、3つのポートと1つのコアを結びつけることにより、大きな柔軟性・拡張性を持った学習・研究空間が生まれると考えました。

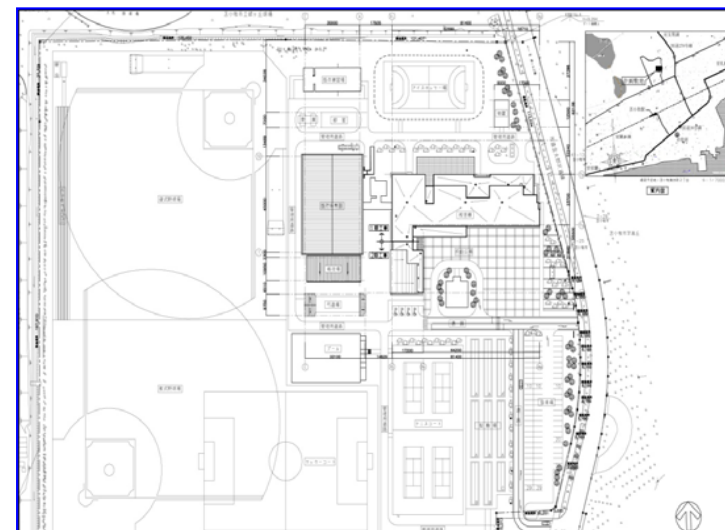
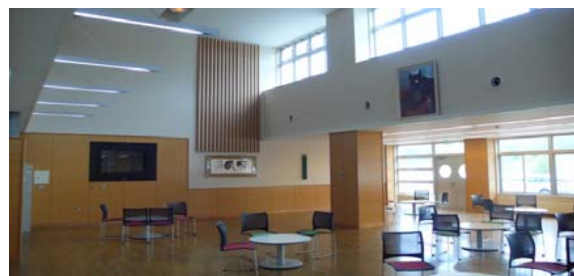
① リラックスコア+メディアセンター

：エントランスホール+図書室+アルコブ

② スタディポート：普通教室+講義室

③ ラボラトリーポート：実験室+芸術系教室

④ マネジメントポート：職員室+管理諸室



学校施設-026

施設名 — 北海道有朋高等学校

所在地 — 札幌市北区屯田9条7丁目

構造・規模 — RC造 一部S造 3階建
14,223㎡

完成年月日 — 平成18年9月29日

基本計画 — 北海道建築設計監理（株）

建築実施設計 — 北海道建築設計監理（株）

設備実施設計 — （株）共伸設備設計事務所

土木実施設計 — （株）シビテック

【設計コンセプト】

北海道有朋高等学校は一つの校舎に2つの学校（通信制・単位制）があり、生徒一人一人はホームルームを持ちません。週末や夜間も授業があり、通信制は車通学が許されており、生徒の年齢層がかなり広く、授業と授業の間に空き時間があるなど、他の高等学校と異なる特色があります。

○ 周辺環境との融合

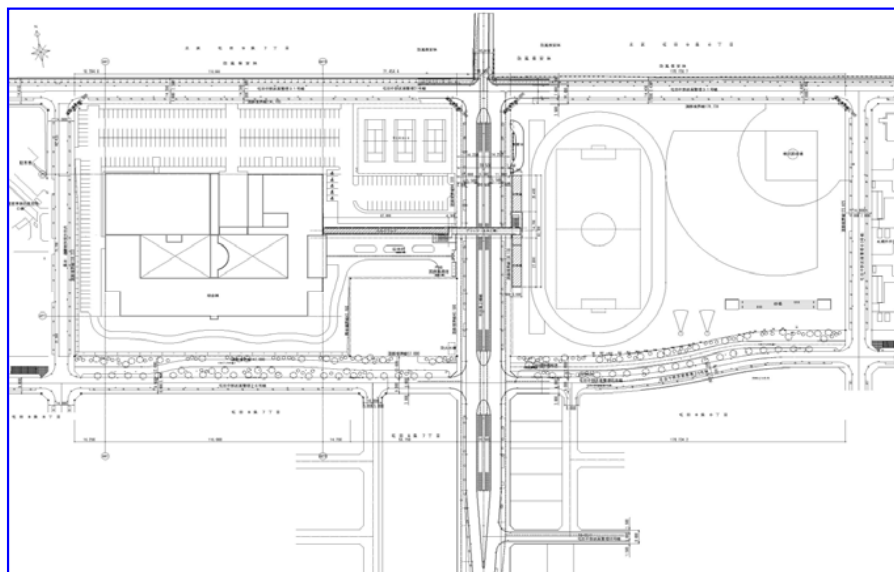
緑に囲まれた回遊性の有る校舎として、防風林、はくくみの道に囲まれた緑豊かな環境に融合する計画とし、幹線道路をまたいだ2つの敷地をスカイウェイ・ブリッジで接続するなどユニバーサルデザインを徹底しました。

○ 群として捉えたゾーニング

特別教室群を賑わいの「街」に見立て1階へ、一般教室はプライバシーに配慮し2・3階へ配置し、アルコーブ空間やコミュニティスペースの充実など、多世代交流に配慮した「新たな学舎」として潤いのあるキャンパス型の校舎群の実現を目指しました。

○ 省エネ・サステナブルへの取り組み

建物の特徴として高寿命、省エネ、メンテナンスフリーの観点から構造体の柱、梁、床版を高強度コンクリート躯体となる工場生産のPC造とし、躯体保護と快適な学習環境実現のため外断熱工法を採用することにより、必要な室以外の内装を省略し、設備配管を露出させ、将来の設備更新時に道連れ改修の少ない建物を目指しました。



学校施設-027

施設名 — 北海道斜里高等学校

所在地 — 斜里郡斜里町文光町5番地1

構造・規模 — RC造 3階建 5,586㎡

完成年月日 — 平成17年9月14日

建築実施設計 — (株)岩見田・設計

設備実施設計 — 塚田設備管理(株)

土木実施設計 — パブリックコンサルタント(株)

【設計コンセプト】

学校とは、伝統と共に立地条件とも深く結びつき、生徒や地域住民に「記憶のふるさと」として受け継がれていくものと考えています。

そこで斜里のもつ歴史や自然環境を活かしながら、学校建築として具現化させるべく、斜里町の風景と一体となった文化発信拠点「街の中の記憶に残るまちづくり」をテーマとしました。

○ 景観への配慮

校訓「凌げ斜里岳」にあるように、斜里岳を凌ぐような健康でたくましく、生命の尊さ、慈悲深さ、勤労と奉仕を尊ぶぬくもりのある心をもった人間に成長するようお願い「斜里岳」をイメージした外観としました。

